



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

本年度の方針

第五十六代会長 土屋 崇



飯能ロータリークラブ第56代会長として一言ご挨拶を申し上げます。

2019 - 20年度国際ロータリー会長のマーク・ダニエルマローニー会長（米国:アラバマ州、ディケーターRC）のテーマは、「ロータリーは世界をつなぐ ROTARY CONNECTS THE WORLD」とし「地域社会とのつながり」、「世界（グローバルコミュニティ）とのつながり」、「仲間とのつながり」、「支援を必要とする人々とのつながり」を掲げました。

また、国際協議会を通じて強調されたことは

変化：変化を受け入れる

変えてよいこと

⇒時代の変化への対応

変化を受け入れる：柔軟性を取り入れる

変えてはいけないこと

⇒ロータリーの優先活動

世界のロータリアンが「同じ価値観とビジョン」を持つ

ロータリーの目的・ビジョン声明・

ロータリーの使命 です。

2570 地区ガバナーの鈴木秀憲氏（吹上RC）は2012 - 13年度に続き2回目のガバナーです

が、地区スローガンを

つなげる：未来へつなぐ

組織の未来へ

個人の未来へ としました。

地区運営の運営方針として、

- ・コンパクトな地区運営：
地区組織の簡素化、専門用語を使わない
- ・クラブ中心の事業：
地区はクラブ事業のお手伝いをする、奉仕事業の原点を考える
- ・会員増強について：
職業分類を新しくし未充填を補充、新しいクラブの設立、シンポジウムの開催
- ・公共イメージの向上：
一般の方を対象にシンポジウムを行う、地域社会に歓迎される社会奉仕を、人道的奉仕をアピール

・職業奉仕：

「倫理観を持って職業を行うこと自体が奉仕」の日本のロータリーの原点の精神を高める
自分と自分の職業を磨く事を推奨

・社会奉仕：

地域の他の奉仕団体(公益法人)との連携、自治体や他の団体への移譲

・柔軟性を取り入れたクラブ運営：

クラブ細則に明記、運営に壁を作らない
を掲げました。

さて、当飯能ロータリークラブは昭和39年に創立され55周年を迎えました。歴代会長・幹事が中心となり築かれた歴史と伝統は脈々と引き継がれております。今年度の国際ロータリーのテーマ「ロータリーは世界をつなぐ」はロータリー活動の原点とも言えるでしょう。「つなぐ(繋ぐ)」は今の飯能ロータリークラブが次の60周年さらに100周年へと続きますように、またロータリー奉仕・委員会活動の継続性は時間軸の継続性でありロータリークラブの会員同志や家族とのつながりや地域社会・他の団体とのつながり(交流)は人と人とのつながりです。

私はロータリークラブの魅力は、一人ひとりのロータリアンの魅力と活動を通じて得られる信頼・達成感・充実感が大きな要素だと思います。そこで本年度は「つなぐ」をテーマとし具体的な活動方針として、

1. 55周年記念行事の開催…皆で祝おう
2. 飯能ロータリークラブの過去・現在・未来を考える…ガバナー輩出の下地作り
3. 公共イメージの向上…ロータリー財団の地区補助金の利用
4. 会員増強(入会3名以上)…身の周り人材の発掘
5. 退会防止…ロータリークラブライフの充実とし、

「人と人との繋がり」「心と心の結びつき」をスローガンとして掲げたいと思います。

次年度へ無事バトンタッチ(つなげる事)ができますように、会員皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

任期を終了して

第五十六代会長 土屋 崇



2019～20年度の飯能ロータリークラブ会長としての任期を終了するにあたりご挨拶申し上げます。

今年度の国際ロータリー会長は「ロータリーは世界をつなぐ」というテーマを掲げられ、2570地区では地区スローガンを「つなげる：未来へつなぐ、組織の未来へ、個人の未来へ」とされました。

当飯能ロータリークラブは昨年創立55周年を迎えましたが、歴代会長・会員中心となり築かれた歴史と伝統は脈々と引き継がれてきた事でもあり、私は「人と人との繋がり」「心と心の結びつき」をスローガンとして掲げました。上期においては、ガバナー公式訪問を始め順調に活動が遂行されましたが、下期においては新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が発生し、年初より日本国内でも感染者が急増し、政府の緊急事態宣言の発出と感染予防対策上、外出の自粛・人との接触自粛などで4月第2週から6月初めまでの約2か月間休会せざるを得ませんでした。

今年度に掲げた具体的な5つの方針・施策について振り返ってみますと、

1. 55周年記念事業として、記念誌の発刊、U-10サッカー大会を行うことが出来ました。しかし記念式典・視賀会の開催は残念ながら中止せざるを得ませんでした。今年度の最大の行事だっただけに実行委員会の皆様、私を含め多くの会員が無念の思いであったと思います。
2. ガバナー輩出の下地作りについては前島田秀和会長年度より検討されてきましたが、2570地区との結びつきが大事なことだと思い、地区への出向者5名の方には数年続けて出向して頂く事で地区との密接なつながり、次のステップの足がかりとなり得ると思ひ引き続き出向をお願いしました。
3. 公共イメージの向上につきましては、ロータリー財団の補助金を利用したU-10サッカー大会の開催が行政関係、参加した子ども達や保護者、市民の皆様にもロータリーの存在・活動の一端を知って頂けたと思います。また、55周年記念事業の一環として飯能市に50万円を、商工会議所にプロジェクターを寄贈したこともメディアを通じてアピール出来たことも良かったと思います。
4. 会員増強については、純増1名をかかげましたが、4名の退会、4名の入会にとどまりました。下期に新入会員の勧誘をもっと積極的にできれば良かったと思いましたがこれも新型コロナウイルス感染症のために人との接触を控えなければならなかった事が悔やまれます。
5. 退会防止については、例会での会員卓話の依頼、日帰りの親睦旅行や日曜日の親睦ゴルフの開催をお願いしました。これも下期に予定されていた日高クラブとの合同ゴルフコンペ、親睦旅行の行事を中止せざるを得ませんでした。しかしながら、55周年記念事業は「皆で祝おう」という合言葉の下にクラブの活性化、結束に繋がる結果になったと思います。

会長として至らない点が多々有りましたがここまで来れたのも偏に会員の皆様のご指導・ご協力の賜物です。とりわけ、役員の方、各委員会の委員長の皆さん、幹事の中里忠夫会員、SAAの前島宏之会員、事務局の西川さん、西脇さんには大変お世話になりました。深甚なる感謝を申し上げます退任のご挨拶と致します。